

今、苦心しようとも ふるさととの未来のために

いなばさん えもん 稲葉三右衛門

稲葉三右衛門は、江戸時代末から明治時代初期に、港の維持と修築に苦心をし、四日市港が発展するきっかけをつくりました。

古くからあった港は、江戸時代の末の「安政の大地震」(1854年)で被害を受け、次第に船の出入りができなくなってきました。それでも1870(明治3)年には、四日市-東京の定期航路ができ、蒸気船が来るようになりました。それを見た稲葉三右衛門は、これからは蒸気船の時代になる、四日市の発展のために大きな船が出入りできる港にしたいと考えました。そこで、新たに運河を掘って海を埋め立てて、築港工事をしようと計画したのです。

1873年に県から許可があり、同年には自分の土地から工事を始めました。1874年に埋め立て地と運河はできあがったものの、資金がなくなり工事を中断しました。1875年に県が工事を引き継ぎましたが、これも中断しました。この間、三右衛門は資金調達に苦心しつつ工事の継続を願い出て、やっと1881年に認められ、1884年に工事は完了しました。



肖像画 (四日市市立博物館提供)

学習のめあて

稲葉三右衛門は、莫大な資金を必要とした四日市港の築港工事を、自らの金を使って行いました。三右衛門は、四日市の発展のために大切なのは港であると考え、大きな船が出入りできる港にして、日本中の港と品物のやりとりができることを願いました。そのためには、大がかりな工事が必要でした。

熱心に港づくりをする三右衛門を見て、まわりの人たちの中には、「自分の土地のねだんを上げて、金もうけするつもりだ」などと言う人もいたそうですが、三右衛門は、「今十万金を投じるのは、後の日の四日市に百万金をもたらさんかため」という言葉を残し、全財産を使い果たしたうえに、多額の負債を抱えたと言われています。

資金調達に苦心しながらも工事を継続しようとした三右衛門の生き方に、どのような感想をもちましたか。当時の三右衛門の心情に迫り、三右衛門の残した業績の価値だけでなく、一人の人間としての生き方に焦点をあてて考えてみましょう。

考えてみよう

- 1 江戸時代の末の四日市は、どんな様子だったのでしょうか。
 - 2 稲葉三右衛門は、どんな事業を行ったのでしょうか。
 - 3 稲葉三右衛門が、苦心して四日市港の工事をしようとしたのはなぜでしょうか。
 - 4 たくさんのお金を使った稲葉三右衛門は、後悔しなかったのでしょうか。
 - 5 郷土の発展に尽くした稲葉三右衛門の生き方について考え、話し合みましょう。
 - 6 自分たちの住む地域の発展に努めた人物について、調べてみましょう。
- ☆ 第1部の『考えよう「働く」ということ (P108～111)』を読んで、働くことの意義について考えを深めましょう。
また、内村鑑三「後世への最大遺物 (P109)」を読み、稲葉三右衛門の生き方との共通点について考えてみましょう。

稲葉三右衛門の港づくり

稲葉三右衛門は、四日市の発展のために大切なのは港であると考え、大きな船が出入りできる港にして、日本中の港と品物のやりとりができることを願いました。そのためには、大がかりな工事が必要でした。

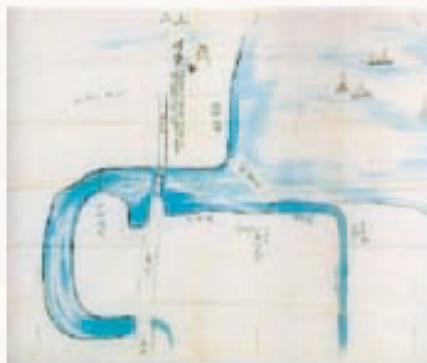
1872（明治5）年、三右衛門は、県に港の工事の願いを出し、許しが出たので自らのお金を使って工事を始めました。

100年以上も前の工事は、今のよ
うな機械がありませんでした。簡単な
道具を使って人の力だけで進められた
のです。三右衛門は、工事をしている
港に行き、働く人々を励ましたそうで
す。

熱心に港づくりをする三右衛門を見
て、まわりの人たちの中には、「自分の土地の値段を上げて、金もうけするつもりだ」な
どと言う人もいたそうです。

たくさんのお金を使った三右衛門は、自分の生活にもこまるようになり、工事は続けら
れなくなりました。そこで、三重県がかわって工事をしましたが、中止されました。三右
衛門は、苦勞してお金を集めたり、工事の願いを何度も出したりしました。

工事費用の計画をかえることで、ようやく国や県から、工事をすることがみとめられ、
1884（明治17）年、ついに港の工事が終わりました。波止場や埋立地、運河、橋などが
つくられました。こうして、四日市港（旧港）は使いやすくなり、港がさかんになるもと
となりました。



工事前の四日市港（一部分）
（四日市市立博物館提供）

港づくりに使われた道具

いなばさん えもん よっかいち
稲葉三右衛門と四日市港の工事の年譜

年代	おもなできごと
1854（安政元）年	・6月と11月に大きな地震があり、港が壊れる。 ・1863年に大きな修理をする。
1870（明治3）年	・船の会社ができ、蒸気船が四日市と東京を行き来するようになる。
1872（明治5）年	・三右衛門が、港の工事をする願いを三重県に出す。
1873（明治6）年	・三重県の許しが出たので、三右衛門は、自分の土地から工事を始める。 ・協力していた田中武右衛門が工事の仕事をやめる。
1874（明治7）年	・三右衛門は、資金がなくなり、工事を中断する（埋立地や運河などはできあがる）。
1875（明治8）年	・三重県が工事を引きつぐ。 ・埋立地が「稲葉町」、「高砂町」と名づけられる。 ・三右衛門が、三重県に工事を続ける願いを出すのが、費用で意見が合わず認められない。 ・汽船会社が、四日市と東京の定期航路をはじめる。
1876（明治9）年	・三右衛門が、港の工事を続ける訴えを裁判所におこす。 ・地租改正反対一揆が起こり、港が焼かれ、県の工事は中断する。
1878（明治11）年	・裁判所は、三右衛門が工事を続けることを認めない。
1881（明治14）年	・三右衛門が、国に港の工事を願い出る。 ・ふたたび、国や県は工事を認める。
1884（明治17）年	・四日市港の工事が完成する。

（注）このころは、県や国にはお金がなく、自分でお金を出して工事をすることが進められていました。